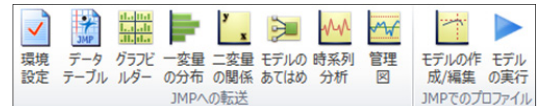


## Excel アドインその 1(JMP®へのデータ転送)

Excel ワークシートにあるデータを JMP へ転送、またはそのデータを基本的な JMP 分析プラットフォームで分析したいという場合、Excel の JMP アドインを使用できます。Excel で設定したモデルを JMP のプロファイルで分析する方法については、[Excel アドインその 2\(Excel のモデルを JMP プロファイルで分析\)](#)のページで紹介しています。

### Excel アドイン: JMP®へデータを転送する

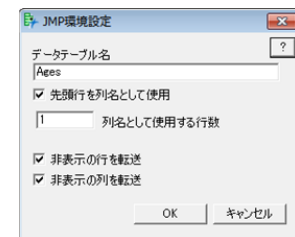
JMP のインストール時に、PC にインストールされている Excel のバージョンに合った Excel 用 JMP アドインもインストールされます。Excel 2007 または 2010 では、Excel 内に JMP リボンが表示されます。



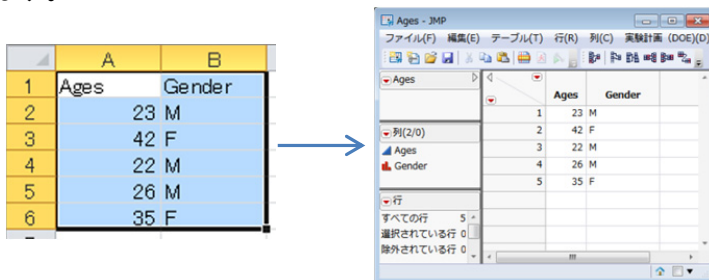
最初の 4 つのボタンの機能を以下に紹介します。

#### 1. 環境設定: 次の項目を設定します。

- JMP データテーブルの名前
- 先頭行を列名として使用するか(デフォルトでは有効)
- 列名として使用する行数
- 非表示の行または列を転送するか



#### 2. データテーブル: 選択されているデータを JMP に転送します。そのデータを含む新しい JMP データテーブルが作成されます。

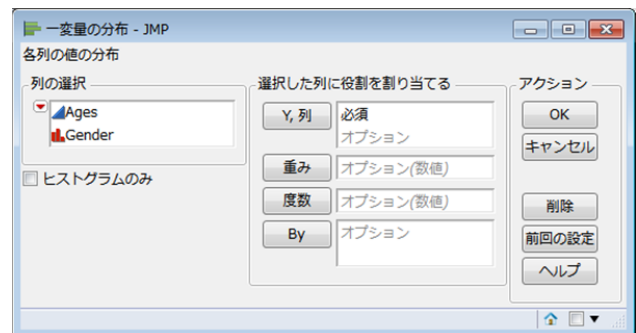
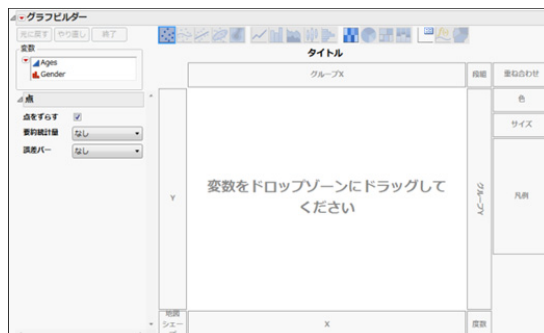


ヒント:

- データテーブルが自動的に表れない場合は、JMP を手前に表示させてみてください。
- データ転送後、JMP の中で設定されている列の尺度(連続尺度または名義尺度)を確認してください。
- JMP は Excel の日付やその他の表示形式のうちいくつかを認識することができます。

#### 3. グラフビルダー: 選択されているデータを JMP に転送し、グラフビルダーのプラットフォームを起動します。グラフビルダーでは、ドラッグ & ドロップの操作で折れ線、平滑線、箱ひげ図、棒グラフ、ヒストグラム、モザイク図、地図などのグラフを作成できます。

#### 4. 一変量の分布: 選択されているデータを JMP に転送し、一変量の分布のプラットフォームを起動します。ヒストグラムや棒グラフの作成、単変量の統計量と信頼区間の算出、仮説検定などが行えます。



注意: Excel のバージョンによる違いやアンインストールなど、Excel の JMP アドインのより詳しい情報については、[JMP の使用法のマニュアル](#)( ヘルプ > ドキュメンテーションの中)を参照してください。